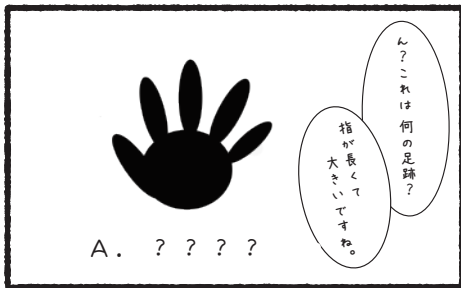


たかおさん

「誰のフィールドサイン？」の巻



作・絵：こばやし

Twitterでふりかえる 高尾山ニュース!

高尾ビジターセンターのTwitter・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。
昨年10月～12月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。



11月は1年を通して最も高尾山が混雑する季節です。
みなさんのお目当ては山内を美しく彩るこの紅葉!!
清滝駅前に現れるケーブルカー待ちの長蛇の列は、秋の高尾山の風物詩とも言えますね。

解説員
こらむ
vol.32

目指せ高尾山での迷子0！
「ロゼ」

突然ですが、私は人の多い場所にでかける
と一緒にいった人達とはぐれることが多々あ
ります。興味を持ったものの方についていふらふら
と行ってしまふからです。そしてよくあるパタ
ーンですが、はぐれたことに気付いた後も連
れを探しながら直感で道を選び、どんどん進
んでいってしまうのです。今は携帯電話を利用
してスムーズに合流できるようになりました
が、幼少期は親にとってはやっかいなタイプだ
ったと思います。

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2023年冬号vol.70

東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成 2023年1月20日発行

所在地:〒193-0844東京都八王子市高尾町2176 電話:042-664-7872 FAX:042-662-9926

(公式ホームページでバックナンバーが閲覧できます <https://www.ces-net.jp/takaovc/>)

高尾山山頂から発信！

高尾山山頂から発信！

のぶすま

「のぶすま」とは
ムササビの古い呼び名です。



vol. **70**季刊
2023 年冬号

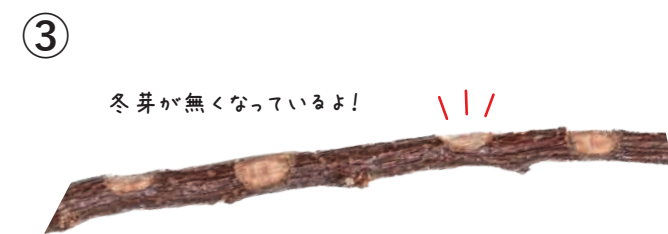
冬の高尾山で感じる“動物の気配”

野生動物にとって冬は耐える季節です。1年を通して最も食べ物が少なく、飢えにより命を落とすことさえあります。山内で動物の食べ痕を見つけると「昨晩はこの場所でご飯を食べていたんだろうな〜!」と、普段見ることが難しい野生動物の気配を楽しめるのと同時に、冬でも様々な食べ物がある事に驚かされます。フィールドサインは、動物たちがたくましく生きる様子を物語り、動物たちを飢えさせない高尾山の豊かさを教えてくれていたのです。

気軽に楽しめるフィールドサイン探しをこの冬、高尾山で始めてみませんか？

冬のフィールドサインクイズ

Q. 誰が残した痕跡だろう？



⑤と⑥は動物の足跡!

答えは裏側へ

「フィールドサイン」とは？

野外で見つかる、動物が残した痕跡のことで、食べ痕、足跡、フンなどを指します。警戒心の強い野生動物を日中に観察することは難しいですが、フィールドサインを見つけると、どの動物がどこにいたか、何を食べていたかなどを推測することが出来るのです！

①テンの糞



レア度 ★☆☆☆☆
場所: 道脇や段など、目立つ場所

観察ポイント!

冬の間は動物食の割合が増えるため、ネズミなどの体毛が混じることが多いです。

②ヒヨドリが実をついばんだ痕



レア度 ★☆☆☆☆
場所: 1号路や5号路など、アオキのある登山道

くちばしの痕が残るアオキの実には赤く熟し、地面に落ちていることが多いです。

③ムササビが冬芽を食べた痕



レア度 ★☆☆☆☆
場所: 2階建てトイレ出口横の広場

器用に芽の部分だけかじり取られ、枝の切り口は斜めに切られています。コナラの冬芽を食べていることが多いです。

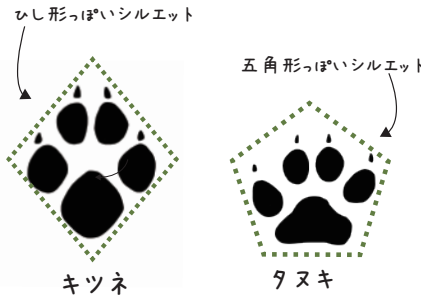
④レンジャク類のフン



レア度 ★★★★★
場所: 浄心門付近のケヤキ下

ヤドリギの実実はフンとして出された時、木に引っかかるように糸を引くのが特徴です。

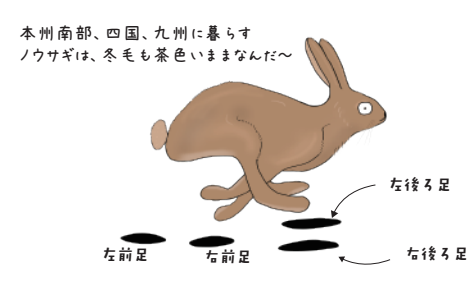
⑤キツネの足跡



レア度 ★★★★★
場所: 薬王院境内周辺、大杉並木沿い

肩幅の狭いキツネの足跡は、モデル歩きのように一直線上に続きます。ひし形のシルエットも特徴です。

⑥ノウサギの足跡

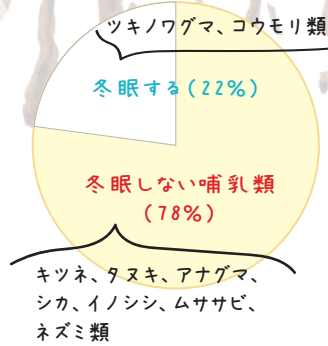


レア度 ★★★★★
場所: 雪が積もった場所で見られるかも・・・?

後足が前に着地し、前足は後ろで縦に並んだ跡が残るので、他の動物にはあまり見られない不思議な足跡になります。

意外? 冬も活動する動物たち。

両生類や爬虫類、一部の哺乳類は冬眠することで生き残るために必要なエネルギーを節約しますが、多くの動物は寒い真冬の間も活動しています。高尾山に生息する哺乳類32種類のうち、25種類は冬眠せずに、寒い冬にも人知れず活動しています。



【ネズミ類の貯食】

冬に備えて木の実を集めて保存しておくことで、森の食べ物が少なくなる季節も食べ物に困りません。巣穴の近くにはたくさんの木の木の殻が捨てられています。

【冬場も活動するアナグマ】

秋に蓄えた脂肪が体温を保つエネルギーや断熱材となり寒さから身を守ります。山頂周辺で地面にお椀状の跡があれば、アナグマが地面の下を餌を探していた跡かもしれません。

フィールドサインを探すなら冬がおすすめ!!

冬は草木が枯れるので、山内の見通しが良くなり、フィールドサインを探しやすくなる季節です。特に雪が積もれば大チャンスで、フィールドサインが目立つだけでなく、キツネやウサギなど目撃情報の少ない動物の足跡が残ることもあります。こういった痕跡は貴重な記録になるので、みなさまからの情報をお待ちしています。(その際は写真もお忘れなく!)

〈解説員 おかだ〉

牧野富太郎と高尾山

2023年度前期からはじまる連続テレビ小説『らんまん』のモデルとなる牧野富太郎(以下、牧野)。牧野は日本の植物学の父とも呼ばれ、数々の功績を残してきた人物ですが、実は高尾山の植物相の解明にもその名を刻んでいるのです。

牧野は裕福な家庭に生まれ、小さい頃から十分な教養を身につけることができたため、小学校は早々にやめてしまったといえます。そこから牧野の日本の植物学のために生きたと言っても過言ではない人生がはじまります。牧野は小さい頃から、家の近くの山に入っては植物を観察・採集を繰り返す日々を送っていました。しかもこの時代、日本で植物の研究は盛んでなかったため、ほぼ独学で進めていきました。その方法はいたってシンプルで、教科書となる植物図鑑と見つけた植物を照らし合わせていたそうです。

牧野は沖縄を除いた全国で植物採集を行っており、その数なんと500地点以上。その調査地のひとつが高尾山です。牧野は1886年から1933年までに44回も高尾山を訪れました。また、牧野は1893年から1939年まで東京帝国大学(現、東京大学)の教員をしており、学生や東京植物同好会(現、牧野植物同好会)の方などと登ることが多かったようです。このことから当時高尾山が学習の場であり、レクリエーション機能を持っていたことがうかがえます。現在でさえ、何回登ってもいつも違う発見がある高尾山。牧野自身も行くたびに新しい発見があり、楽しんでいただけないかと思います。牧野が高尾山で新しく発見した植物も多く、レモンの香りがするレモンエゴマやシロバナオオバジャ

ノヒゲ、イナモリソウと比べて花の形が変わったホシザキイナモリソウなど10種類以上の植物を発見しました。それぞれ自然研究路やその他の登山道沿いで見ることが出来ます。(詳しくは、のぶすま2020年夏60号をご参照ください。)

約1500種類の植物や約5000種類の昆虫が生息するともいわれる高尾山は研究者を惹きつけました。研究者たちが足繁く通い研究をした結果、たくさんの新種が見いだされたため、その植物相の豊かさを誇れるようになったのではないかと考えます。日本の歴史に残る植物学者の牧野も度々訪れた高尾山。当時から気軽に花を楽しめる山であったことが窺えて、現在も個人や団体で花を楽しむ聖地となっています。そんな高尾山に花の観察に訪れてみてはいかがでしょうか。

最後に、牧野と高尾山を関連付ける資料はとも少なく、関連施設の方々にご指導・鞭撻を賜りました。練馬区立牧野記念庭園学芸員田中氏には、ご助言をいただきました。厚く御礼申し上げます。東京大学総合研究博物館池田氏には、資料を提供いただきました。厚く御礼申し上げます。



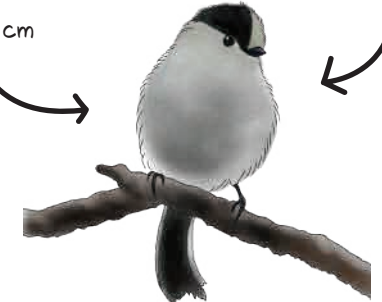
レモンエゴマ

見られる時期・通年
見られる場所・山内どこでも
(人の少ない朝や夕方がおススメ)

〈解説員 かわたま〉

冬は暖かい空気を逃さないように
羽毛を膨らませてまんまるに!

全長14cm



「ジュリリリ…」「チュルルル…」と鳴く

エナガ
冬はモフモフ度5割増し!

解説員の

ちおし

vol.28